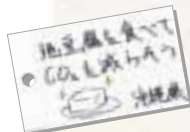


取り組み名 あたいくわープロジェクト

# 地豆腐を食べて、CO<sub>2</sub>を減らそう。

昔ながらの地豆腐を、大豆づくりから再現。  
うまさもフードマイレージも、優等生。



沖縄在来種の大豆「オーヒーゲー」（青ヒゲ）と「高アンドン」を地域の人々が栽培・普及し、昔ながらの「繁多川豆腐」を再現しました。地元産の原料を使った加工品を普及させることで地産地消を促進し、食糧の輸送にかかるエネルギーを削減。「フードマイレージ」の考え方を広めることにもつながっています。世代を超えた住民間のコミュニケーションの場や機会が広がり、地域の活性化や町づくりにも役立っています。

繁多川地域で、かつて豆腐づくりに使われていた在来種の大豆「オーヒーゲー」は、ほとんど忘れ去られた存在だった。



団体名:繁多川公民館  
所在地:沖縄県那覇市  
ウェブサイト:<http://ataiguwa.ti-da.net/>

都道府県大会の名称

よくみりゃそうかも?

減らせCO<sub>2</sub>ありんくりん 沖縄県大会

大豆のサヤから豆を傷めずにはずす棒状の道具「クルマンボウ」を使った「クルマンボウ打ち」を再現。

## ストップ温暖化「一村一品」大作戦 全体の流れ

ストップ温暖化「一村一品」大作戦では、まず全国47都道府県(※1)で、各地のシンボルとなる地球温暖化防止の取り組み(一品)を募集。

各都道府県では、それぞれにユニークな大会名称をつけて親しみやすさをアピールしながら(※2)、隠れた取り組みを掘り起こし、地域ならではの「一品」を都道府県代表に選びました。

その後、JCCCAが47都道府県代表の取り組みをとりまとめてウェブサイト等で公表、一般参加によるウェブ投票を募ったり、メディアなどを通じて、全国におむけた情報発信をしていきました。

全国大会では、古美術鑑定家の中島誠之助さんなど有識者5名の審査委員会が、プレゼンテーションや事前審査書類を元に、ウェブ投票の結果も参考にしながら総合的に判断し、最優秀賞などの各賞を決定しました。

来年度も各地のさまざまな地域ならではの取り組み(一品)を集めて情報発信し、温暖化防止対策をさらに盛り上げていきます。

※1: 都道府県地球温暖化防止活動推進センターを中心に、センター指定のない県は別途公募で実施団体を決定(P.43参照)

※2: 大会名称はP.11~42の都道府県代表紹介ページ参照

